くまもり北大阪たより

第 43 号
2014 年 5 月 20 日発行
日本熊森協会北大阪地区

夢のような話

小さな村を紹介します。南フランスのプロヴァンス地方にある人口千人足らずのコランス村は完全なオーガニック村です。この村は耕地の 95％がブドウ畑で主にワインを生産していました。今から 20 年前、大手のフランスワインに押され小さな村のワインは太刀打ちできず、若者も村から離れ過疎化していました。村全体を完全な有機栽培農家にして差別化を図ろうという村長の提案に村民も協力し、苦労の末に 2 年後に初めてのオーガニックワインを誕生させました。病虫害でブドウが全滅したり、大変な苦労を重ねた末、虫除けにはハーブを使ったり、馬が畑を耕して雑草を防いだり、堆肥にしたり工夫を重ねました。

今ではコランス村のワインはＥＵでも評価が高く、コンクールで入賞も果たしています。ワインだけでなく、チーズ生産、野菜やハーブの農業、化粧品の材料など産業も広がってきて、若者たちを惹きつけ、当時 650 人だった村の人口は千人近くまで増えました。この 20 年で虫が増え、キジやイノシシなどの野生動物も山に戻ってきたそうです。夢のような話ですが、日本でも小さな単位なら出来そうな取り組みのような気がしました。若者がとても生き生きとしているんだそうです。（森川）

資料提供
広野美和子

林業女子会を知っていますか

平尾　豊

林業女子会は、森づくり活動、女性目線で考えた木製グッズの企画等、さまざまな分野で林業に興味を持っている女性のグループで、二〇一〇年に京都で出来たのを皮切りに、今や全国 9 都府県（京都、東京、静岡、石川、栃木、岐阜、兵庫、長崎、愛媛）に設立されています。各地林業女子会はそれぞれ独立しており、会社員、学生、森林組合や自治体の職員などで、10 代から 60 代と幅広い年齢層の女性達で構成されています。男性社会のイメージが強い林業に、女性ならではの視点から様々な提案を行い、楽しみながら森林を守り、林業を盛り上げていくことをコンセプトに頑張っています。各地林業女子会はネットワークで相互交流や新たな林業女子会の設立を行い、少しずつ広がりをみせており、今後の林業への貢献が期待されています。

くまもりの輪

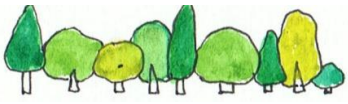
豊中市　小野田たか子

「伊吹山にイヌワシを見に行きませんか？」とのお誘いに二つ返事、大喜びで出かけた。ドライブウェイの終点に近い少し広くなった所に、もうかなりの先客がいた。青い空に二羽のイヌワシが時々ピーと鳴き交わしながら弧を描いて舞っている。私も大急ぎでカメラを取り出した。１０枚も撮っただろうか、首が痛くなって周りの景色を見ることにした。

かなり遠くの谷への傾斜地に黒いボールのようなものが二つ、転がったり登ったりしている。双眼鏡でよく見ると熊のようだ。だれかが「熊がいる！」と叫んだ。　「ツキノワグマの子どもや」「かわいい！」「相撲とってる～」とガヤガヤしたが、そのうち、「あんなん、すぐ殺されてしまうんや」という声に一瞬で静まり返った。あの子熊たち、今どこにいるのだろうか？なんとか生き延びていてほしい。

■今月の定例会報告■

▽５月11日　２時～４時半
▽出席者　11名
◆本部連絡事項（平尾地区長）
・第17回くまもり全国大会開かれる
・本紹介…「高尾山から公共事業を問う」
・但東町植樹　５月31日
・日本自然保護連盟の会議に熊森が出席
・奥山学会
◆奥山再生活動参加報告（竹内）
５月は但東町大河内へ。植樹に向けての整備。
◆日本環境法律家連盟の講演会報告（平尾）
「トチノキ巨木群はこうして守られた」
◆環境教育　桃園小学校公演へ向けて
（平尾美）
◆くまもり大会参加者の感想など
・とてもよかったと思う。元気になった
・懇親会に時間がもっとあればよかった
・熊牧場の長崎さんの話がずしんと来た
・質疑応答がなかったのは残念
・全体にさらっと流れて物足らなかった
・フルーツ食をしている人に驚いた
・大会の前後にハガキが来たが要らないのでは？　郵送費がもったいない　などいろいろな感想が出ました。



今後の定例会予定
6月8日（日）
7月13日（日）
いずれも２時から４時半
千里中央コラボ第３会議室

北大阪たよりのご質問
ご意見、ご連絡などは下記へ
森川 TEL　06-6310-8673
FAX 06-6310-8674
mon-art@zeus.eonet.ne.jp